

会議結果報告書

1 会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（市民向け意見交換会③）
2 日時	平成 30 年 12 月 2 日（日）14：00～15：45
3 場所	市役所分庁舎 5 階 A B 会議室
4 出席者	（資源循環課）森岡担当主査、原田副主査、永井主任 （環境事業センター）小川所長補佐、和田主事 （市民）参加人数：6 人
5 内容	<p>本市のごみ処理に関する課題について説明を行った。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <p>●今回開催している意見交換会はどのような目的で開催されているのか。すでに決まっていることを説明する機会ということか。 →市内の 136 自治会を対象に同様の意見交換会を本年 6 月頃から実施しており、これまで延べ 2,500 名以上の市民にご参加いただき、様々なご意見を頂戴している。今回の意見交換会については、自治会の枠にとらわれず幅広い市民の方にご参加いただくことを目的に開催しているものである。今後もしもご要望があれば、適宜、意見交換会を実施させていただく予定であり、いただいたご意見を踏まえ、来年度方針を決定していく。その際には、いただいた意見について市民の皆様フィードバックさせていただく。</p> <p>●意見交換での意見や賛否を踏まえ、方針を決めるということか。 →意見交換会の際にアンケートにお答えいただいております、その結果をとりまとめ方針決定の参考とさせていただきます。結果については、とりまとめ次第公表させていただきます。</p> <p>●先程のような質問にもあるとおり、有料化ありきという印象を市民が持つ要因はどこにあると考えているのか。本日の意見交換会の参加者が少ないが、どのような周知をしているのか。 →広報紙やホームページ、広報掲示板など、様々な媒体を通じて周知している。</p> <p>●すべての広報掲示板において、掲示されているわけではないし、十分な周知がされているとは思えない。合計で 2,500 名以上の市民が参加したとしても、各回の参加者が数名程度では市民の意見を聞いたことにはならない。市民生活に関わる重要な問題であるにもかかわらず、周知が十分にされていないため市民に情報がきちんと伝わっていない。アンケートを実施するにしても、より多くの市民に対しきちんと情報を伝えた上で実施しなければ、正しい結果を得ることは出来ない。有料化や戸別収集について判断するのであれば、情報の伝え方が非常に重要となる。</p> <p>●課題の一つ目において、約 25%が不適正であるとしているが、この数値はどのくらい減らせると考えているのか。不適正な排出がされており、市民の分別が徹底されていないため、有料化を実施するという論調になっている。</p>

→25%を0%にすることは難しいと考えている。

●具体的な努力目標はあるのか。25%という数字の検証がされているのか。茅ヶ崎市では、燃やせないごみであるはずのプラスチック製品であっても、一部は燃やせるごみに分別するようなルールとなっている。一般的な市民の感覚では、燃やせないごみであり、地球環境のことを考えても燃やせるごみとして分別すべきではない。市民が誤って分別しても仕方ない状況であるにもかかわらず、きちんと分別できていないものが25%あるというのはおかしいのではないかと。25%という数字を捉えるときに、何を目的に分別をするのかという点が重要である。単に分別ルールを守ることが目的なのか、地球環境を考えることが目的なのか、その点を整理した上で、25%をどの程度減らすのか示さなければならないと思う。分別ルールは非常に細かいため、市民が全てを理解するのは困難である。25%という数字のすべてを市民の努力が足りないとしているが、そうではないと思う。それを理由に有料化を行うという論理は飛躍している。

→ご指摘のとおり、茅ヶ崎市の分別ルールが地球環境を考えたものとなっているかと言われれば不十分であり、その点は課題として認識している。25%という数字は、現在の茅ヶ崎市のルールどおりに分別されずに出されているものの割合である。市として周知が十分でない点もあるが、これをできる限りきちんと分別していただきたいということが説明の趣旨である。どこまで減らせるかと言うことはあるが、0%にするために有料化を実施するという事ではない。これとは別に、全体のごみ量を捉えたときに、有料化によりごみの減量につながることを全国的に実証されており、そのために検討を進めていきたいということである。

●有料化しても2・3年で減量の効果は鈍ってしまうのではないかと。

→確かに他市の動向を見ても、実施後数年で減量効果は横ばいか、場合によってはリバウンドしてしまうこともある。金額の設定により、効果を高められるというデータもあるので、その点についても検討を行いたい。

●有料化については様々な側面から仕方がないと思う。戸別収集については反対である。メリットとデメリットの説明があったが、環境の美化にはつながらないと思う。

●最終処分場の課題については、別の次元の話であると思う。新たに施設が作れないのであれば、再資源化はやむを得ないし、市民の意見を聞くようなレベルの話ではない。最終処分場の話は、市民に情報提供しきちんと理解してもらうべき話であり、有料化の具体的な検討と同列に説明すべきではない。

●ごみ袋について、現在も袋を購入しているが、それが市指定のものに変更となるということである。不公平感の解消をメリットとしているが、他市の事例を見ても方法が様々ある中で、市としての具体的な考えはあるのか。そういった方法こそ、市民の

意見を聞くべきではないか。

→現時点では検討段階であるが、他市の事例について確認をしている。有料化を実施している全国の自治体の9割以上で、排出量に応じて手数料を徴収する方法（単純従量制）を採用している。一定量を無料とし、段階的に料金を加算する方法等もあるが、単純従量制が多く採用されている理由としては、運用コストが低いことや仕組みが分かりやすいことが挙げられる。

●職員自身の分別状況を確認して、完璧に分別が出来ているのか確かめてもらいたい。どうしても混在してしまうものがあるはずであり、それが限界値となるはずである。その中には汚れている資源物もあると思う。25%という割合を捕らえて、市民の努力が足りないとは言い切れないと思う。

→限界値を明確にするのは難しい。市民の中には一生懸命努力をして減量に努めている方もいれば、いい加減に分別をしている方もいる。減量に努めている方は継続的に取り組んでいただき、いい加減な分別をしている方は適正な分別に取り組んでいただくことにより、25%という数字を1%でも減らしていきたいと考えている。

→ご意見をお伺いして、市としても周知が十分に出来ていないことは課題として捉えている。有料化を検討する以前に、市民への啓発について取り組んでいきたい。

●自治会単位でごみの勉強会を実施し、情報を伝えていきたいと考えている。市民が十分な情報を得た上で、有料化や戸別収集について賛否を議論していきたい。戸別収集について経費がかかることを認識せずに、利便性の面だけを捉えて賛成の意見を述べるような方もいる。正しい情報を提供した上で、判断しなければアンケートをとる意味もない。

→自治会を対象とした出前講座を実施しているので、ご活用いただきたい。

●最終処分場の問題は別の議論として扱っていただきたい。回避できない問題として、市民に説明してもらいたい。

●以前に家庭から出されるごみについて調査を行ったことがある。ごみの減量に取り組む上では、市からのトップダウンと地域からのボトムアップが大切であると思う。戸別収集については反対である。まずは、日頃からの小さな積み重ねを長く続けていくことが必要である。

→引き続き地道に啓発を続けていきたいと考えている。

●これまでの長年にわたる検討過程を見ても、有料化や戸別収集についてはすでに決定事項であり、アリバイ作りとして意見交換会を実施していると考えている。仮に実施した場合の条件として、2点お願いしたい。1点目は、戸別収集を実施して、望むような効果が出なかったり経費が掛かりすぎたりした場合は、きちんと方向性を修正

してもらいたい。一度実施したから、後戻りしないということではなく、元の状態に戻すことも視野に入れてもらいたい。2点目は、突発的な経費の増加がないようにしてもらいたい。民間事業者への委託は望ましくないが、そうせざるを得ないと思う。その場合、入札で事業者を決めることになるが、当初安い金額で引き受けた事業者が、数年後に高い金額を提示することも考えられる。そういった状況に陥ることがないよう約束してもらいたい。実施前に、小規模なエリアで段階的に実施してみることも方法としてあると思う。

→市の仕組みとして、施策の評価を行っておりきちんと検証作業を行っていく。

●県内各市の状況として4市が挙げられているが、その他のところは実施していないのか。横浜市や川崎市ではやっていないのか。

→市として比較しているので4市だけの記載となっているが、県内では二宮町と寒川町が実施している。神奈川県33市町村の内6市町、実施率は18%である。

●賛否を問うのであれば情報が少なすぎる。袋の値段をいくらにすれば減量が進むのかという話も必要であると思う。有料化を実施している寒川町では不適正な排出に対して非常に厳しい罰則を設けている。茅ヶ崎市でも厳しく徹底しなければ適正な分別は進まない。戸別収集については、集合住宅のメリットが得られないので享受できるメリットに差が生じる。個人宅におけるカラス被害の問題もある。単に集積場所の管理がなくなるだけではなく、個人に責任が及ぶということも認識しなければならない。→現時点では検討段階であるため、袋の値段や効果については改めて別の機会にお知らせさせていただく。不適正排出に対する罰則については対応も含めてその段階においてご案内させていただく。集合住宅についてはメリットが少ないこともきちんと伝えた上で、ご意見を伺っていきたい。

●決まる前に知らせていただきたい。

→決まる前に情報提供させていただく。

●戸別収集を実施してもらいたいという声を上げる方は、地域の集積場所で困っている方である。地域の問題をどのようにしたら改善できるかという根本的なことを考えずに、表面的に戸別収集で解決を図ろうとしている。それでは問題解決にはつながらない。そういった情報についてもきちんと伝えなければならない。

→皆様にメリットデメリットをきちんとお伝えしていく。

●有料化については反対である。施設整備にかかるお金があるのであれば財源の使い道を考えてもらいたい。ごみ処理という身近なところにきちんと予算を使ってもらいたい。

●レジ袋の有料化を行っている大規模スーパーの袋を有料袋として転用できる仕組み

を検討してもらいたい。捨てるためだけの袋を新たに作るは無駄である。環境先進国などを見習い、柔軟な考えをもって取り組んでいただきたい。

●ごみを捨てる際、透明半透明の袋でなく紙袋で出せないのか。

→出すことは出来ない。資源物である紙類であれば出していただける。

●汚れた紙類は洗えばリサイクルできるのか。

→汚れたものはリサイクルできないため、燃やせるごみで出していただきたい。

●地域の集積場所において、分別が分かりにくい品目が不適正に排出され、収集してもらえないことがある。環境指導員として注意喚起をする際には、誰かを悪者にするのではなく、住民が理解しやすいような工夫をして、情報提供している。地域で出来る努力として地道に積み重ねることが重要であるとする。

以上